

## C. 生徒指導研究

米山 誠 原 幸宏 丸山 豊 川田 基生  
安井 弘美 米田 閨一 田内 公望 長岡 咲子

### 自由な教育から自由な教育へ

—端初の自由から生成の自由へ—

川 田 基 生

#### I・はじめに

自由な学校、それは生徒たちにとっても、教師にとっても理想郷。

我々の名古屋大学教育学部附属中・高等学校も、創立以来、自由な教育をめざして進んできていると言える。

本稿は、この自由な教育の継承と発展をめざす、一考察である。

本校に限らず、わが国の学校には、自由のもたらす恵沢を享受しうる無比の幸福がある。方途を誤らなければ、豊かな社会にあって、開かれた良い学校としてゆくことができよう。

#### II. 自由であることの光と陰

人間のよさ、美しさ、有能さは千差万変かぎりないのであるから少々統一を欠いても、社会は自由であるのがいい。

そして、学校は個性の生成の場であり、生徒は為すことによって学ぶのだから自由は大切にされねばならない。

しかしながら、多くのことを手がけ過ぎればなにひとつ身につかない。学びにともなう苦勞からの逃避。学校の指導方針が多様であるなら生徒は戸惑う。

自由は豊かさ、多様性を伴う。しかし、豊富であることと不統一は表裏であり、多様であることは浅薄さにつながる。

教育の場での自由は精選されねばならない。

#### III. 状況 —学級経営実践報告(3)—

(高校2年男子23名女子22名合計45名198\*年筆者のクラス)

#### i 学力と進路

上位7 <small>割</small>	地方国立大学、有名私立大学に進学可能
8～44 <small>割</small>	名古屋地区の私立大学
45～55 <small>割</small>	中部地区の私立大学、 または名古屋地区の夜学
56～78 <small>割</small>	本州全域の私立大学の中に 受け入れてくださる大学あり

進路の担当者は下位25パーセントの生徒の大学進学はむつかしいとしている。親元から離れ、私立大学へ通った場合の4年間の経費は800万円を超える。

専修学校は教育内容が過密かつ高度で入学後1～2月について行けなくなる。公務員試験も成績中位以上で合格圏。

行き場がないと感じている生徒が増えている。

#### ii 家庭環境

生活準要保護家庭	1
母子家庭	4
実母不在の家庭	3 (母と生別 1 死別 1)

特に母の不在は生徒の表情を極端に暗いものにして

iii 特別指導

- 警察・家庭裁判所のお世話になった生徒 3
- 窃盗などで校内特別指導を受けた生徒 4
- (+上記 3)

名古屋家庭裁判所の上記生徒の学校照会書には、〈窃盗 昭和〇〇年 少 第7207号〉とあり、調査官に会うまでに、かなりの待ち行列があったという。

iv 傾向と対策

他の教師にとって可愛くない生徒、しかし、境遇を知る担任としてはかわいそうだと思う事例も少なくない。

生徒①父の病死以後学業に手がつかず

- ②母は瀕死の重病で看病疲れ
- ③兄の非行で家庭内が暗い
- ④両親とも身体障害者
- ⑤妾腹の子
- ⑥若すぎの継母
- ⑦実母と生別 (一学級中の7名)

⑦についてもう少し説明しよう。⑦の家では、この子の幼い時に、一家をあげて実母を追放。子は窓のないはなれの小屋に住んでいた。長期欠席が始まると、親は学校をやめ、家からも出ることを迫った。子も激しい反抗を繰返した。

- 4月 テストでカンニング 事実を確かめる ○
- 本人指導 ○
- 保護者呼び出し 継母来校に難色 ○
- 5月 面談 家庭内の人間関係を聞く ○
- 6月 家庭訪問 外泊先から通学 家庭に戻す○
- 7月 両親、本人の三者協議の場を設定 ○
- ...
- ...

上記を6手とするなら3月までに⑦の件で28手。心身ともに疲労している教師が増えている。

IV. 教育の場でなくなる兆し

—フラッシュオーバー現象—

本校では、完全抽選に近い入試制度を十年以上実施してきた。学力的には、長期にわたる低落傾向が見られる。

しかし、生徒を人柄の面から見ると、すなおさ、いつわりのなさ、長期にわたり良くなってきている。非行を繰り返す崩壊家庭の子も1~2割含まれるが、その他は朴訥なまじめな生徒達である。

このような状況下、《荒れる学級》がときとして出現する。



—写真の説明—

昨年度文化祭。ホームルーム企画。教室での演劇上演。「白雪姫」生徒による創作シナリオ。

当初2回公演を予定していたが、大入満員で、3度上演した。

名古屋大学教育学部、附属中高等学校紀要、第31集、(昭和61年)、拙稿「学級経営実践報告(2)」参照。



室内火災を例にとるなら、  
発火……………問題行動、しかし境遇からすると必然  
火炎気流……悪い雰囲気  
天井面へ……担任教師がつぶれる  
未燃可燃物加熱……………

数人の生徒が非常識な行動を公然とする  
全域の火災…荒れる学級  
部屋全体が燃えだす時期を安全工学の用語でフラッシュオーバー(flash over)と呼ぶという。

## V. 学校とは何か

不良少年達は好き勝手にふるまう。教師には献身と博愛が義務づけられ、悪事の後始末に追われる。生徒は学ぶこともないまま高校の卒業の資格を手にする。

学校は、人才育成のためにある。有徳の人を育てる教育の場であったはずである。

生徒から見て、学校は開かれた、楽しいイメージを保つべきだが、良識が支配することによって生まれる秩序も不可欠である。

良い秩序を生み出すために、下記のことが必要となる。

## VI. 教師の役割

自由放任でいいか。それは生徒達をⅡで示した混乱の下に放置することになる。自分の病気を自分で直すことはできない。

無為自然に振る舞っていれば良いのか。

自然に欠けているものを満たそうとするのが教育。

教師の役割は、生徒が幸福に生きる事ができるような理性、意志、感情の望ましい在り方を明示し、毎日手厚く指導することにある。

## VII. 教育内容

状況を考えるなら、素朴な内容がいい。

善く、美しく生きるための教育。

きだてがよく、職場に新鮮な空気を送りこむ事ができ、熱心な働き者の育成。

人間存在の本質に則し、なおかつ仕事において有能な人の育成。

## VIII. 教育方法

Ⅶの実現のために《習慣によってあらかじめ耕す》必要がある。才知を発揮すべき時間空間も設定されねばならない。しかし、フラッシュオーバーを起こしかねない状況下では、ヘクシス重視が焦眉の課題であろう。

## IX. 校則

30人で600人をみる。管理主義は必然か。  
集団のために個人を否定しないということは可能か。

規律が生徒の人間の完成あるならば、そして、校則が思慮と理性の結実であるならば可能。

原理的には可能。現実的には以下のことが必要と思われる。

学校の規則が厳しくなるのは、一握りの悪業を繰り返す生徒に対峙するためである。

迷える小羊を大切に。しかし、現在の状況では、迷っている小羊の世話に追われて、群れ全体を次のオアシスまで導くことが難しくなっている。

## X. 方途

### i 第一段階 人心一致・信頼の確立

学校という場所で、相互の信頼はどうすれば生まれてくるだろうか。

生徒から見て教員が良い教育家であり、教師が卒業時の生徒に自信と愛情が持てるようになることが大事。

それでは、良い教育家になるにはどうすればいいか。すべてを教えることはできない。教育内容の精選と教育過程の定型化が生徒会活動、学級会、部活動においても必要となる。自由は精選されねばならない。

そして、教師は疲れ果ててはいけぬ。教師は端的に自由人で、余裕をもたねば。そのために、たっぷりとした余暇を持ち、自己錬磨に没入すべきである。学校全体では、用を節し、事柄を大事にして。

### ii 第二段階 組織戦略

教師が余裕綽々を回復したのちに手がけるべきことは、組織の見なおし。

どんな組織であっても、時間の経過とともに、生成発展と衰弱老化が交錯する。

創立後数十年の組織にありがちな欠陥は何か。

アメリカの経営学によれば、創立時にあってやがて失われがちなのは、

《コモン・パーパス》

《コミュニケーション》

《ウィリングネス ツウ サープ》

《共通の目的》

自由な教育の継承と発展。発展の内容としてのヘクシス重視。人才育成、学風醇化。

《意志伝達》

生徒会組織、学級会組織の完全情報をめざす再編成。教師間の呼吸あわせ。

〈貢献意欲〉

日常の教育の成果発表の場としての行事への構成員全員の主体的参加。

貢献意欲が自然に生まれてくるために、人と物資、そして金、時間空間の適正配分に細心大胆な配慮が必要となる。

昭和62年度生徒会会計決算報告

2. 支出の部

項	目	予 算 額	決 算 額	増 減 額
1	加 盟 費	120,000	118,080	1,920
	行 事 費	400,000	335,737	64,263
	小 計	520,000	453,817	66,183
2	野 球 部	65,500	61,100	4,400
	柔 道 部	0	0	0
	卓 球 部	27,500	27,480	20
	バドミントン部	78,000	78,000	0
	バレーボール部	25,800	25,800	0
	テニスコーター部	45,100	45,100	0
	弓 道 部	39,000	39,000	0
	テ ニ ス 部	64,750	64,350	400
	女子バスケ部	20,000	7,400	12,600
	ハンドボール部	64,500	61,250	3,250
	アマチュア無様	58,670	23,000	35,670
3	水 泳 部	69,500	43,750	25,750
	美 術 部	61,320	60,390	930
	マンガ研究部	37,000	22,230	14,770
	小 計	656,640	558,850	97,790
3	新 聞 報 道 局	132,260	141,979	+9,719
	局 放 送 局	90,400	90,320	80

iii 第三段階 ヒューマンズムの教育

教科教育の内容、自治活動、規律の指導の三者を教育目標の下、調和あるものへと再編成。

XI. 実践

1988年3月 部活動改革案教官会議で可決 部の数半減。中高一貫化。

4月 上記の第二段階三目標を生徒部の方針として部内です承。

5月 文化祭の企画数半減の生徒部原案、高校担任会の支持を得る。

生徒会組織の改革案、生徒総会で議決。

XII. あとがき

学校での教育実践、主として、生徒会、学級、部活動についての目標と手段についてまとめてみました。

組織の目標としての〈自由な教育〉。これは、教師にとっても、生徒にとっても、個性と独創性を保ち得る良い、そして伝統的な目標。

手段としての習性育成、校風醇化。中等教育の大衆化で教室空間にはスラム化の兆しあり。学校は学校らしい学校であり続けてほしい。

昭和63年度 高校生徒会予算案

支出の部

項	目	本年度予算額	昨年度予算額	差し引き増減	
本	加 盟 費	75,000	120,000	-45,000	
	行 事 費	400,000	400,000	0	
	計	475,000	520,000	-45,000	
部	弓 道 部	67,350	39,000	+28,350	
	バスケットボール部	36,650	20,000	+16,650	
	活	ハンドボール部	96,900	64,500	+32,400
	テニスコーター部	96,250	64,750	+31,500	
	動	バドミントン部	111,300	78,000	+33,300
費	美 術 部	81,810	61,320	+20,490	
	計	490,260	327,570	+162,690	
局	報 道 局	198,000	132,260	+65,740	
	放 送 局	140,000	90,320	+49,680	

—部の数を減らし、部員数を確保。活動場所を十分にとり、顧問数を増やし、部活予算を6割増額